

いま、自分たちにできること

関連する主な人権課題：H I V感染者・ハンセン病回復者等

ハンセン病は、「らい菌」という細菌による感染症ですが、感染したとしても発病することは極めてまれで、万一発病しても、現在では、早期治療により確実に治癒し、後遺症も残りません。「ヒト免疫不全ウイルス（H I V）」は、感染力が弱く、一般の生活の中では特定の条件が整わなければ感染しません。しかし、周囲の人々の誤った知識や偏見などにより、ハンセン病回復者やH I V感染者とその家族などに対する様々な差別が残っています。これらの課題を解決し、同じ過ちを繰り返さないためには、何が大切なのかを考えてみましょう。

●研究課題

(1) H I V感染者などに対する差別や偏見について調べてみましょう。

【ポイント】

- ・歴史と現状について調べてみましょう。
- ・課題の解決に向けて、何が大切なのかを話し合ってみましょう。

(2) ハンセン病回復者などに対する差別や偏見について調べてみましょう。

【ポイント】

- ・歴史と現状について調べてみましょう。
- ・課題の解決に向けて、何が大切なのかを話し合ってみましょう。

●活動課題

(1) 保健所や市役所などの関係部署を訪問し、新たな感染症などについて聞いてみましょう。

【ポイント】

- ・新たな感染症などの特徴をまとめてみましょう。
- ・聞き取った内容をもとに、疾病予防について話し合ってみましょう。

(2) ハンセン病やH I V感染症に関する正しい知識を確認する「チェック・シート」を作成してみましょう。

【ポイント】

- ・グループで「チェック・シート」を交換して回答し、気づいたことを話し合ってみましょう。
- ・「チェック・シート」を「学校保健便り」などにより、発信してみましょう。

●ケーススタディ

資料を読んで、感想を話し合ってみましょう。

加西市出身の谷川秋夫さんは、ハンセン病を患い、14歳で岡山県にあるハンセン病療養所の長島愛生園に入所しました。次の手記は、平成15(2003)年、谷川さんが79歳のときのものです。

「80年を生かされて」(抜粋)

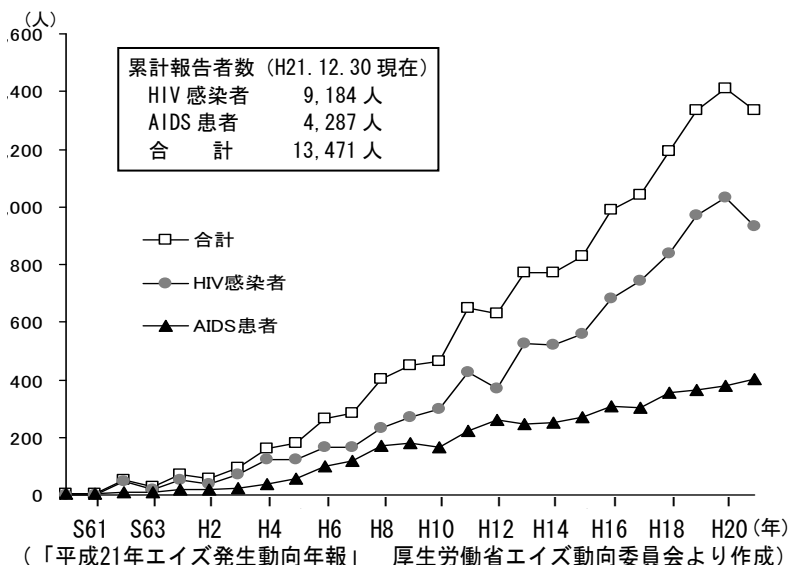
私は、今ではハンセン病も治ったものの、目も手も足も不自由という重度の後遺症を持っています。90年間のらい予防法が廃止され、3年前には違憲国家賠償請求訴訟^{※1}に勝訴し、療養所も随分明るくなりました。しかし、いまだハンセン病に対する差別・偏見が、特に高齢者層に根強く残っており、私たち回復者と家族は悲しい思いをしています。それを払拭するためにも、まず療養所を訪ねてほしい。正しくハンセン病を理解し、私たち回復者を故郷に「お帰りなさい」と言って迎えてほしい。もう20年もすれば、ハンセン病療養所は、また、私どもは地上から姿を消すでしょう。明日にでも会って、肩を叩き合いつつ語り合ったり、歌を歌い合ったりしようではありませんか。

なえし手に 手を添へもらひ わが鳴らす
鐘はあしたの 空にひびかふ^{※2}

※1 平成10(1998)年、熊本地裁に「らい予防法」違憲国家賠償請求訴訟が提起され、平成13(2001)年、原告が勝訴し、政府は控訴を断念した。「らい予防法」は、平成8(1996)年に廃止された。

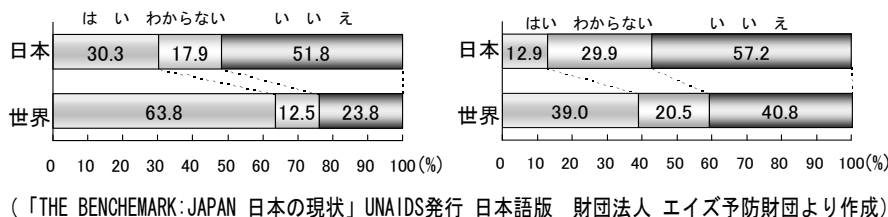
※2 谷川秋夫さん詠歌。平成5(1993)年の皇居での「歌会始の儀」における入選作品。

●日本のHIV感染者・エイズ発病者の推移



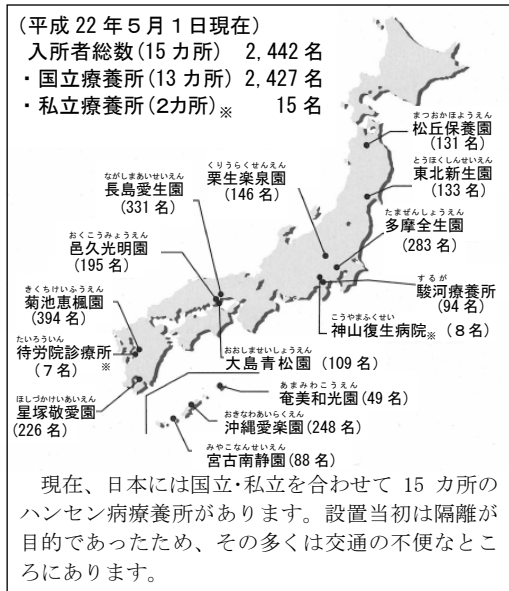
※ 報告者数が増加傾向にある背景として、HIV検査受診者数の低迷や人々の感染症に対する正しい知識の不足による濃厚接触、薬害エイズ問題などが関係していると考えられている。

●エイズは自分たちの国の問題だと思いませんか? ●エイズは自分たちの地域・コミュニティの問題だと思いませんか?



●熊本地裁判決の日に、原告が勝訴の感動を綴った詩 ●ハンセン病療養所

太陽は輝いた
90年、長い長い暗闇の中
一筋の光が走った
鮮烈となって
堅い巖を砕き
光が走った
私はうつむかないでいい
みんなと光の中を
胸を張って歩ける
もう私はうつむかないでいい
太陽は輝いた



キーワード解説

▼ ハンセン病

ハンセン病は、「らい菌」による細菌性感染症で、早期に適切な治療を行わないと、皮膚や末梢神経を侵し、皮膚に結節や斑紋などを生じさせ、また、末梢神経が侵されることから知覚障害や発汗障害を生じることもある。「らい菌」は感染力が弱く、非常に感染しにくい病気で、発病には個人の免疫力や衛生状態、栄養状態などが関係するが、現在の日本の衛生状態や医療状況、生活環境を考えると、「らい菌」に感染しても、ハンセン病になることはほとんどない。また、ハンセン病は、優れた治療薬により後遺症を残すことなく治癒する感染症である。

▼ ヒト免疫不全ウイルス (HIV)

ヒト免疫不全ウイルスは、免疫のしくみの中心であるヘルパーTリンパ球(CD4細胞)という白血球などに感染し、からだを病気から守っている免疫力を破壊する。HIVによる感染が進むと、全身の免疫機構が破壊され、抵抗力がなくなり、さまざまな病気をおこす。このいくつかが合併して発病した状態を、後天性免疫不全症候群(AIDS)という。HIVは感染力が弱いので、一般の生活の中では、特定の条件が整わなければ感染しない。HIVへの感染は、HIV検査を受けることではじめて感染の有無を確認することができる。

▼ 薬害エイズ問題

1980年代に、主に血友病患者に対し、加熱などでウイルスを不活性化しなかった血液凝固因子製剤(非加熱製剤)を治療に使用したことにより、多数のHIV感染者及びエイズ患者を生み出した。

▼ 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 [平成10(1998)年]

従来の「伝染病予防法」「性病予防法」「後天性免疫不全症候群の予防に関する法律(エイズ予防法)」及び「結核予防法」を統合して制定された。過去にハンセン病、後天性免疫不全症候群などの感染症の患者などに対するいわれのない差別や偏見が存在したという事実を重く受け止め、これを教訓とし今後には生かすため、感染症をめぐる状況の変化や感染症の患者などが置かれてきた状況を踏まえ、感染症の患者などの人権を尊重しつつ、これらの者に対する良質かつ適切な医療の提供を確保し、感染症に迅速かつ的確に対応することを求めている。

●関係機関等

- (1) 国立ハンセン病資料館
- (2) 厚生労働省 ハンセン病に関する情報ページ
- (3) 国立感染症研究所 感染症情報センター
- (4) エイズHIV.

- <http://www.hansen-dis.jp/>
<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/kenkou/hansen/index.html>
<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
<http://aids-hiv.jp/>